発行 ： 2007年10月

Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定（変額保険用） 月次運用報告書（2007年9月）

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
2007年9月における特別勘定（変額保険用）の運用状況をご報告致します。
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス　http://www.axa.co.jp/life/

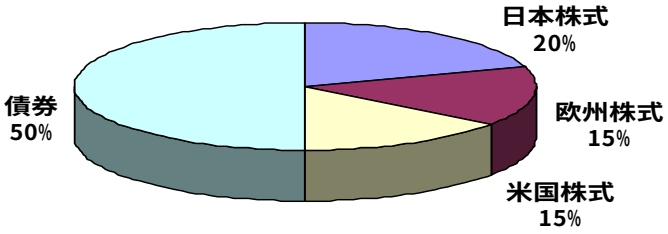
特別勘定の運用方針

- 日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。
- 基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。
- 特別勘定の運用は、各投資信託（ファンド）の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社プロダクト部が行います。
- 特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社（運用協力会社）の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。
- 各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

（グローバルミックスの資産配分比率）



＊上記は設定当初の資産配分比率です。
＊資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

運用協力会社（ファンドの運用会社）のご紹介

■アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、グローバルに業務を展開するアクサ・ローゼンバーグ・グループの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づくアクティブ運用を行っています。

1987年の日本進出以来、日本株式の運用業務と内外の株式運用商品のご提供を行ってまいりました。

現在では、株式、債券、オルタナティブ投資商品まで幅広くお客様のニーズにお応えした高品質な運用商品をご提供しています。

・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていますので、合計等と合致しないことがあります。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1−17−3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

運用環境について（2007年9月）

【日本株式市場】

■ 当月の日本株式市場は先月に引き続き米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題拡大懸念より下落し、9月11日には15,610円65銭をつけました。その後9月18日には米連邦公開市場委員会(FOMC)において▲0.5%の大幅利下げが決定され、海外市場が反転したことから月後半にかけて日本株式市場は堅調に推移しました。

■ 9月12日には安倍晋三首相が突然の辞任を発表し、9月23日には新首相として福田康夫氏が選出されたことに対する株式、為替市場の反応は限定的でした。9月10日に発表されたGDP第2四半期実質成長率改定値は3四半期ぶりに前期比マイナスの年率▲1.2%となりましたが、翌日発表の7月機械受注では市場予想を大幅に上回る前月比+17.0%と発表されると先行きの設備投資増加期待が高まり、また円高も落ち着いた動きとなったことで市場心理が改善し、それまで大きく売り込まれていた不動産業や銀行業などにも買い戻しの動きが広がりました。

■ 東証33業種の月間上昇率上位5業種は、鉱業(+11.50%)、卸売業(+8.79%)、ゴム製品(+8.79%)、非鉄金属(+8.26%)、海運業(+7.52%)となり、一方下位5業種は金属製品(▲10.49%)、銀行業(▲7.09%)、その他金融業(▲5.72%)、証券、商品先物取引業(▲4.98%)と空運業(▲4.17%)となっています。

【米国株式市場】

■ 当月の米国株式市場の主要株価指数の騰落率は、S&P500種株価指数は+3.58%、ダウ平均株価は+4.03%、ナスダック指数は+4.05%となりました(いずれも現地通貨ベース)。月初は、8月分の雇用統計が予想以上に悪化したことから小幅調整したものの、月中旬を境に回復トレンドに乗り、高値圏で終了しました。

■ 月初は生産者物価指数(PPI)指数が予想を下回る結果となったことや消費者信頼感指数も事前の予想を下回ったことから、サブプライム問題が雇用情勢を悪化させ、消費低迷から景気減速を起こしうるとの懸念が広がり市場は調整しました。しかし、当月中旬から米連邦公開市場委員会(FOMC)による▲0.5%の金融政策の誘導目標金利(FFレート)と公定歩合の同時引下げにより買い安心感から金融株を中心に前面高の展開となりました。月後半にかけ、足元の消費者物価は安定を続ける一方で、この連銀による緊急対策が先々インフレを助長する可能性があることから金利は上昇し、米ドルは弱含みました。原油先物が1バレル80米ドル台と最高値を更新する中で、反発していた米国株式市場は堅調に推移し、月を終えました。

【欧州株式市場】

■ 当月の欧州株式市場の主要株価指数の騰落率は、MSCI欧州株価指数は+1.68%、FT100指数は+2.59%、仏CAC指数は+0.94%、独DAX指数は+2.92%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 月初から月中旬にかけて、米国の景気先行き懸念が高まったことや、信用リスク不安で市場金利が上昇し、金融市場の混乱を受けた英住宅ローン大手で銀行業務も行うノーザン・ロックに対し、イングランド銀行(英中央銀行)が緊急融資を実施し、資金繰り支援に乗り出すなど、欧州株式市場は乱高下しました。これに対し、市場の安定化を目的とした欧州中央銀行(ECB)による継続的な資金供給や、米連邦公開市場委員会(FOMC)が金融政策の誘導目標金利(FFレート)を▲0.5%の引下げたことを好感し米株高となったことを受け、欧州株式市場は反発しました。また、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題に伴う混乱が落ち着きを見せ始めたことも市場の支援材料となりました。なお、当月、欧州中央銀行(ECB)とイングランド銀行(BOE)は、政策金利を据え置きました。

【国内債券市場】

■ 当月の国内債券市場は、月中旬まで米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題の信用収縮による債券高が続きましたが、月後半には、米サブプライム問題の落ち着きやインフレ懸念により、債券安となりました。

■ 9月前半は、米サブプライムローン問題が、信用収縮懸念につながり、株安と債券高が継続する結果となりました。4-6月期法人企業統計で設備投資が10.2%減(除くソフトウェア、前期比)と大幅に低下したことや、それに伴い同期実質GDPが下方修正されたこと等が足元の景況感の弱さを示す結果につながりました。また、8月米雇用統計が大幅に悪化したことや、欧州中央銀行(ECB)が利上げを見送ったことも、米サブプライム問題の波及や米国景気下振れリスク懸念の増大につながり債券堅調の材料となりました。

■ 月後半に入ると、米連邦準備制度理事会(FRB)が米連邦公開市場委員会(FOMC)にて予想を上回る▲0.5%の利下げを実施したことから、債券は軟調となり、1.5%水準まで低下した長期金利は上昇に転じ、月末には1.7%台に到達しました。米国の予想を上回る利下げは、米株高として好感され、米国景気減速懸念の払拭につながりました。また、インフレ懸念の再燃にもつながり、原油価格高騰も相まって、米国債券の金利が上昇し、国内債券市場の動きに波及する結果となりました。9月の金融政策決定会合において、8対1の賛成多数で金利据え置きが決定したものの、依然として水野審議委員が反対票を投じ、年内の利上げの可能性の道筋を残したことも、月前半の利上げ先送り観測の反動につながり、金利上昇要因となりました。

《参考指標》

		2007年8月末	2007年9月末	変化率
日本	TOPIX（東証株価指数）	1608.25 ポイント	1616.62 ポイント	0.52%
	日経平均	16569.09 円	16785.69 円	1.31%
	新発10年国債	1.600 %	1.675 %	0.075上昇
米国	NYダウ	13357.74 ドル	13895.63 ドル	4.03%
	S&P500	1473.99 ポイント	1526.75 ポイント	3.58%
	NASDAQ	2596.36 ポイント	2701.50 ポイント	4.05%
	10年国債	4.529 %	4.587 %	0.058上昇
欧州	FT100	6303.30 ポイント	6466.80 ポイント	2.59%
	CAC40	5662.70 ポイント	5715.69 ポイント	0.94%
	DAX	7638.17 ポイント	7861.51 ポイント	2.92%
	独10年国債	4.242 %	4.329 %	0.087上昇
為替	米ドル/円レート	116.07 円	115.43 円	0.55%円高
	ユーロ/円レート	158.57 円	163.38 円	3.03%円安

＊各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利（日本）、ジェネリック米国利回り10年（米国）、ドイツ国債10年の利回り（欧州）を表示しております。
＊為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。

特別勘定の資産内容について（2007年9月）

【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のＩＮＤＥＸ」とは、弊社が変額保険「Ｇｌｏｂａｌ Ｍｉｘ」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。

日付	INDEX
06/10/31	0.976
2006/11/30	0.977
2006/12/31	0.997
2007/1/31	1.007
07/02/28	1.009
07/03/31	1.009
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993
07/09/30	1.007

【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
1.53%	-0.17%	3.72%	8.45%	21.30%	0.73%

注）設定日である２０００年８月１日を１．００としたパフォーマンスを示しています。
注）騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。
注）上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。
注）この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

【特別勘定資産の内訳】

項目	金額（千円）	構成比（%）
預貯金・コールローン	581,156	1.5
日本株式型投資信託①（アクサＲ）	3,867,984	10.0
日本株式型投資信託②（アクサＲ）	5,852,306	15.2
米国株式型投資信託（アクサＲ）	5,894,400	15.3
欧州株式型投資信託（アクサＲ）	3,832,299	10.0
日本債券型投資信託（アクサＲ）	17,990,620	46.7
その他	510,592	1.3
特別勘定合計	38,529,359	100.0

注）金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っておりません。

【保有契約高】

項目	件数（件）	金額（千円）
有期型	1,142	2,646,140
終身型	58,067	313,871,957
合計	59,209	316,518,097

注）金額の単位未満は切り捨てとしました。

【特別勘定の解説】

■ 当特別勘定は原則として、５０％を安全資産での運用にしております。
■ 積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の２５％、欧米株式で２５％の資産配分といたします。
■ リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとでの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

【今後の運用方針】

■ 特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

（アクサ生命保険株式会社　プロダクト部）

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

日本株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ　ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：TOPIX

【運用状況】

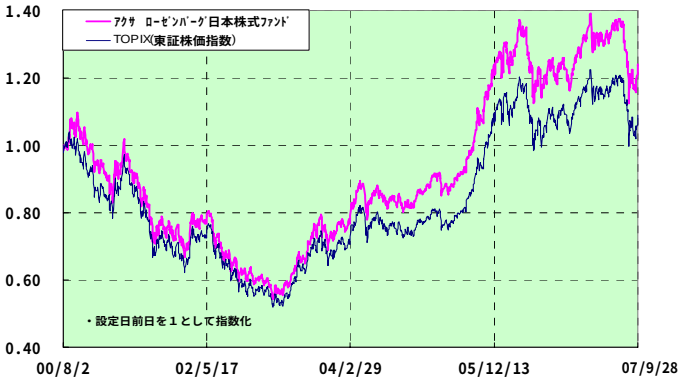
当月は、ベンチマークであるTOPIXが+0.52%であったのに対し、当ファンドは、+1.24%となり、+0.72%のアウトパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、下落した銀行業を少なめに保有していたことや、上昇した金属、総合商社を多めに保有していたことは、いずれもプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、下落したりそなホールディングスや東京エレクトロンを少なめに保有していたことや、上昇した住友化学を多めに保有していたことはいずれもプラスへの寄与となりました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社　日本株式運用チーム)

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.4%
2	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.4%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.4%
4	キヤノン	電気機器	2.3%
5	新日本製鐵	鉄鋼	1.9%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.7%
7	日本電信電話	情報・通信業	1.7%
8	三菱商事	卸売業	1.6%
9	松下電器産業	電気機器	1.6%
10	ジェイ　エフ　イー　ホールディングス	鉄鋼	1.6%
合計			21.6%
組入銘柄数			350銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

日本バリュー株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ　ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：TOPIX

【運用状況】

当月はベンチマークであるTOPIXが+0.52%となったのに対し、当ファンドは+1.87%となり、+1.35%のアウトパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、下落した銀行業を少なめに保有していたことや、上昇した総合商社、金属製品などを多めの保有していたことは、いずれもプラスに寄与しました。
個別銘柄では、それぞれ上昇した松下電器産業、ジェイ　エフ　イー　ホールディングスや住友商事を多めに保有していたことはプラスへの寄与となりました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社　日本株式運用チーム)

基準価額推移（対ベンチマーク）

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	松下電器産業	電気機器	4.7%
2	ジェイ　エフ　イー　ホールディングス	鉄鋼	4.0%
3	日本電信電話	情報・通信業	4.0%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	3.5%
5	本田技研工業	輸送用機器	2.7%
6	三菱重工業	機械	2.6%
7	ＫＤＤＩ	情報・通信業	2.4%
8	キヤノン	電気機器	2.4%
9	富士フイルムホールディングス	化学	2.3%
10	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.2%
合計			30.8%
組入銘柄数			284銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価して います。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

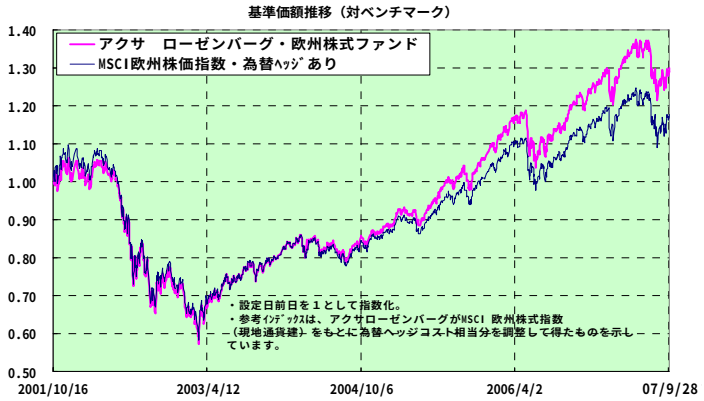
欧州株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　幅広い投資対象（欧州約3,500社が対象）を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ　ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：MSCI欧州株式指数（為替ヘッジあり）

【運用状況】

当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が+2.82%であったのに対し、当ファンドは+2.45%となり、▲0.37%のアンダーパフォームとなりました。
当月の欧州株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比較して多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した建築資材、空運などを多めに保有していたことや、上昇したトイレタリーを少なめに保有していたことはいずれもマイナスに寄与しました。
個別銘柄では、下落したRoyal Bank of Scottland（ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド、イギリス）を多めに保有していたことや、上昇したNokia OYJ（ノキア、フィンランド）、素材のRio Tinto Plc（リオ・ティント、イギリス）などを少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。



【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.5%
2	トタル SA	エネルギー	2.2%
3	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	1.9%
4	BP PLC	エネルギー	1.8%
5	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.8%
6	ENI SPA	エネルギー	1.5%
7	ネスレ SA	食品・飲料・タバコ	1.4%
8	サンタンデール銀行 SA	銀行	1.4%
9	ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド	銀行	1.4%
10	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-B-SHS	エネルギー	1.4%
合計			17.3%
組入銘柄数			313銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

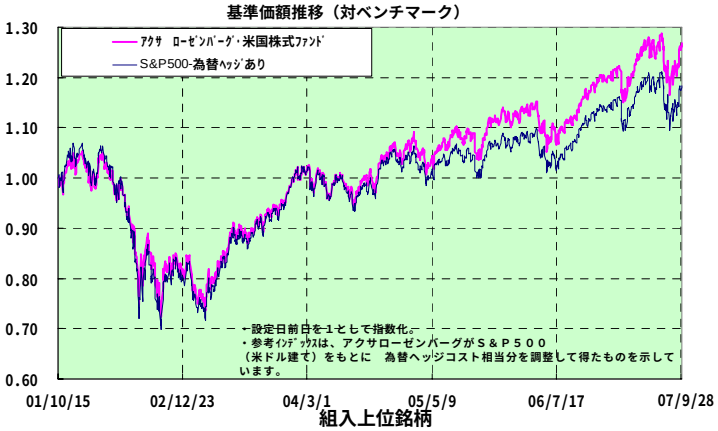
米国株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　幅広い投資対象（米国約6,500社が対象）を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ　ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：S＆P500（為替ヘッジあり）

【運用状況】

当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が+4.64%であったのに対し、当ファンドは+5.10%となり、+0.46%アウトパフォームとなりました。
当月の米国株式市場は、これまでに相対的にみて株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄ベンチマークに比べて多めに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、上昇した航空機、化学、防衛関連を多めに保有していたはプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、上昇した素材のMonsanto Company（モンサント・カンパニー）、小売のAmazon Com Inc（アマゾン）を多めに保有していたことと、大きく下落したFannie Mae（ファニーメイ）を保有していなかったことはプラスに寄与しました。



【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	3.9%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.7%
3	バンク・オブ・アメリカ	銀行	2.2%
4	シスコシステムズ	テクノロジー製品・機器	2.0%
5	シェブロン	エネルギー	1.9%
6	IBM	テクノロジー製品・機器	1.8%
7	ファイザー INC	医薬品・バイオテクノロジー	1.7%
8	JPモルガン・チェース	電気通信サービス	1.6%
9	AT&T INC	電気通信サービス	1.5%
10	ヒューレット・パッカード	テクノロジー製品・機器	1.5%
合計			20.8%
組入銘柄数			285銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

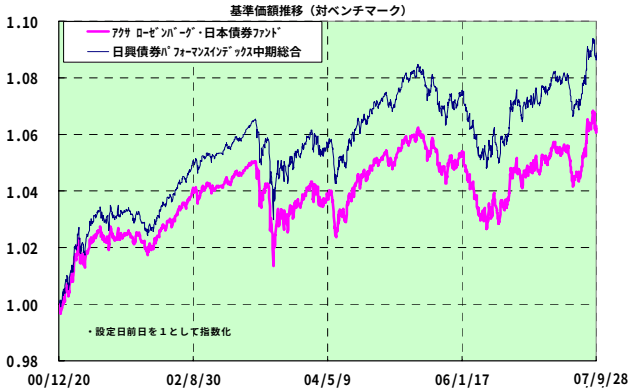
注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

日本債券ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]：　主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。
「アクサ　ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]：日興債券ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ・ｲﾝﾃﾞｯｸｽ中期総合



[運用状況]

当月はベンチマーク、ファンドともに＋0.08%の上昇となりました。
9月当初、8月に引き続き米サブプライムローン問題を発端とする信用収縮の動きが継続したことから、月前半は、デュレーションの小幅長期化を維持しました。景気、物価情勢は概ね日銀の展望に沿う形で推移してきているものの、国内企業の堅調さの裏づけとなっていた設備投資の伸びが鈍化し、消費関連等を含め弱含んでおり景況感に力強さが見られません。また、世界経済の不確実性も依然として払拭されないことから、更なる金利低下余地は限定的であるものの、日銀による早急な金利正常化もまた、難しくなるとの判断を維持しました。しかしながら、月後半に入ると、金利上昇が急激であったことから、見通しの変更はしていないものの、その流れを受けて、月後半、一旦デュレーションを中立水準に戻しました。したがって、月を通してみるとパフォーマンスに対する寄与は限定的となりました。

信託財産の構成

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
公社債	99.0%	4.36年
短期資産等*	1.0%	12.55年
合計	100.0%	4.44年

＊債券先物を含む

[今後の運用方針]

足元の消費者物価指数はゼロ近傍となっているものの、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移しており、日銀は、今後も金利の正常化を意識した金融政策を続けて行くものと思われます。しかし、外的要因としての米サブプライムローン問題の波及等依然として不確実要素が存在しており、日銀は再度、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられます。9月も利上げを見送っており、この不確実性の高まりを強く意識しているものと思われます。したがって、当面は、米サブプライムローン問題の拡大や長期化、及び国内景気動向への影響を十分に意識しながらの舵取りとなるため、金利正常化を急ぐことは難しいと思われます。また、不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高く、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても大いに注視をして行く方針です。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社　日本債券運用チーム）

公社債の内訳

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
国債	85.6%	4.58年
地方債	0.0%	0.00年
特殊・財投債	1.8%	3.58年
金融債	0.0%	0.00年
社債等	11.6%	2.88年
コールローンその他*	1.0%	12.55年
合計	100.0%	4.44年

＊債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分**	構成比率
AAA	1.4%
AA	92.1%
A	6.0%
BBB	0.5%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

** S&P格付を優先

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年）

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年　8月　1日	1,000	-290	1,000	-253	0.73	0.10
平成12年　9月　1日	1,000	-299	1,000	-261	-0.76	-0.11
平成12年　10月　1日	1,000	-273	1,000	-237	2.07	0.29
平成12年　11月　1日	1,000	-252	1,000	-216	4.38	0.62
平成12年　12月　1日	1,000	-227	1,000	-192	7.05	1.00
平成13年　1月　1日	1,000	-205	1,000	-171	9.41	1.34
平成13年　2月　1日	1,000	-218	1,000	-183	7.41	1.08
平成13年　3月　1日	1,000	-177	1,000	-144	12.00	1.74
平成13年　4月　1日	1,000	-153	1,000	-121	14.51	2.11
平成13年　5月　1日	1,000	-180	1,000	-147	10.87	1.62
平成13年　6月　1日	1,000	-171	1,000	-138	11.55	1.74
平成13年　7月　1日	1,000	-155	1,000	-123	13.10	1.99
平成13年　8月　1日	1,000	-124	1,000	-93	16.43	2.50
平成13年　9月　1日	1,000	-79	1,000	-49	21.42	3.24
平成13年　10月　1日	1,000	-24	1,000	3	27.64	4.15
平成13年　11月　1日	1,000	-42	1,000	-13	25.02	3.85
平成13年　12月　1日	1,000	-48	1,000	-19	23.86	3.74
平成14年　1月　1日	1,000	-47	1,000	-18	23.48	3.74
平成14年　2月　1日	1,000	-16	1,000	12	26.85	4.29
平成14年　3月　1日	1,000	-24	1,000	4	25.44	4.14
平成14年　4月　1日	1,000	-39	1,000	-10	23.16	3.86
平成14年　5月　1日	1,000	-30	1,000	-2	23.69	4.00
平成14年　6月　1日	1,000	-33	1,000	-4	22.98	3.96
平成14年　7月　1日	1,000	10	1,000	38	27.74	4.77
平成14年　8月　1日	1,000	50	1,000	78	32.18	5.55
平成14年　9月　1日	1,000	54	1,000	82	32.17	5.64
平成14年　10月　1日	1,000	89	1,000	117	35.93	6.33
平成14年　11月　1日	1,000	93	1,000	121	35.91	6.44
平成14年　12月　1日	1,000	77	1,000	106	33.55	6.17
平成15年　1月　1日	1,000	110	1,000	139	37.06	6.86
平成15年　2月　1日	1,000	141	1,000	171	40.33	7.53
平成15年　3月　1日	1,000	150	1,000	180	40.88	7.77

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　　TEL　03-6737-7777（大代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績(%)	年複利(%)
	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	155	1,000	186	41.05	7.94
平成15年 5月 1日	1,000	137	1,000	167	38.18	7.60
平成15年 6月 1日	1,000	122	1,000	151	35.80	7.32
平成15年 7月 1日	1,000	102	1,000	131	32.95	6.93
平成15年 8月 1日	1,000	92	1,000	121	31.26	6.75
平成15年 9月 1日	1,000	84	1,000	112	29.81	6.60
平成15年 10月 1日	1,000	83	1,000	112	29.23	6.62
平成15年 11月 1日	1,000	72	1,000	100	27.46	6.39
平成15年 12月 1日	1,000	78	1,000	106	27.67	6.58
平成16年 1月 1日	1,000	67	1,000	95	25.94	6.34
平成16年 2月 1日	1,000	56	1,000	84	24.15	6.08
平成16年 3月 1日	1,000	45	1,000	72	22.39	5.80
平成16年 4月 1日	1,000	32	1,000	59	20.43	5.46
平成16年 5月 1日	1,000	35	1,000	62	20.38	5.58
平成16年 6月 1日	1,000	48	1,000	76	21.43	6.00
平成16年 7月 1日	1,000	38	1,000	65	19.79	5.71
平成16年 8月 1日	1,000	58	1,000	86	21.74	6.41
平成16年 9月 1日	1,000	60	1,000	88	21.50	6.52
平成16年 10月 1日	1,000	62	1,000	90	21.30	6.65
平成16年 11月 1日	1,000	69	1,000	97	21.57	6.93
平成16年 12月 1日	1,000	59	1,000	86	19.97	6.64
平成17年 1月 1日	1,000	45	1,000	72	17.97	6.19
平成17年 2月 1日	1,000	47	1,000	75	17.84	6.35
平成17年 3月 1日	1,000	35	1,000	62	15.99	5.91
平成17年 4月 1日	1,000	37	1,000	64	15.78	6.04
平成17年 5月 1日	1,000	56	1,000	84	17.54	6.92
平成17年 6月 1日	1,000	47	1,000	75	16.11	6.61
平成17年 7月 1日	1,000	37	1,000	64	14.54	6.22
平成17年 8月 1日	1,000	27	1,000	54	13.03	5.81
平成17年 9月 1日	1,000	23	1,000	50	12.18	5.67
平成17年 10月 1日	1,000	-6	1,000	19	8.45	4.14
平成17年 11月 1日	1,000	2	1,000	28	9.05	4.62
平成17年 12月 1日	1,000	-20	1,000	-20	6.23	3.35
平成18年 1月 1日	1,000	-34	1,000	-34	4.32	2.44
平成18年 2月 1日	1,000	-44	1,000	-44	2.86	1.71

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績(%)	年複利(%)
	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)		
平成18年 3月 1日	1,000	-35	1,000	-35	3.40	2.13
平成18年 4月 1日	1,000	-41	1,000	-40	2.47	1.64
平成18年 5月 1日	1,000	-35	1,000	-35	2.69	1.89
平成18年 6月 1日	1,000	1	1,000	1	6.20	4.62
平成18年 7月 1日	1,000	1	1,000	1	5.85	4.65
平成18年 8月 1日	1,000	5	1,000	5	5.83	4.98
平成18年 9月 1日	1,000	-10	1,000	-35	3.78	3.49
平成18年 10月 1日	1,000	-7	1,000	-30	3.72	3.72

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成19年9月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター